



安倍内閣は「檻」に入れ嚴重に管理を

ライオンと檻のお話

安倍首相は秋に予定されている臨時国会に自民党としての憲法改正案を提出しようとしています。
憲法とはどういったものでしょうか。

樫大樹弁護士は国をライオン、憲法を檻に例えて、人は生まれながらに人権を持っていて人権を守るために国は存在するが、国が自分の都合の良いように権力を行使しないための国民への文書での約束事だと説明しています。

だからこそ、憲法で義務を定めているのは教育、勤労、納税の3項目だけなのです。

ところが安倍首相ら、憲法を変えたいと思っているひと達は憲法についてのこの考え方を否定し、天賦人權なんて考え方はヨーロッパ的だが国にはふさわしくないなんて言うことを講演会で話しているのです。

興味のある方はインターネットで「憲法改正誓いの儀式」で検索してみてください。

自民党が2012年に発表した憲法改正草案では、「公益及び公の秩序を害しない」範囲で人権を認める内容となっています。

この憲法改正草案は自民党の案としてその後も撤回されていないことを考えると安倍首相の下での憲法改正は非常に危険なものだと思いませんか。

今年も戦争展に参加して

私は九条の会の活動として毎年戦争展に参加しています。

企画をしておられる方は大変だと思います。

戦争はこれほど多くの市民が死に至ることを証明しています。

今年は沖縄の辺野古への普天間基地移設に対する闘いが大きく出されました。

規模は例年に比べると小さい感じを受けましたが、初めて京都全体の九条の会の紹介がされました。参加した会があまりにも少なく残念に思いました。わが松尾九条の会を作った歴史を中心に署名行動の写真を紹介しました。(松尾 山田)



安倍総理が云う「生涯現役」

1995年に「日経連」は労働者を3つの階層に分け、非正規労働者をどんなに作る方針を決めました。

推進したのは小泉内閣と、竹中平蔵大臣(現.パソナ会長)でした。

その結果、日本の若者の貧困が進み「結婚できない」「子供を産めない」「子殺しさえする」貧困な社会をまねきました。同じ資本主義のなかでもヨーロッパ諸国では、賃上げと労働時間短縮、子育て環境の整備に国を挙げて取り組みました。

日本では「我さえ良ければよい」弱肉強食のブラック企業が蔓延、長時間過密労働で過労死があいつぎ、若者の未来を壊す事態に陥りました。

財界のなかでも反省する意見も出されましたが、安い労働力を求め、外国人雇用を増やすと共に年金の支給年齢を遅らし高齢者を安上がりで働かす「国策」を取っています。

年金を68歳に、更に70歳に遅らし、金額も下げる、死ぬまで働かず「生涯現役」という美辞でごまかされてはなりません。赤坂自民亭の皆さんは年収うん千万円、辞めてもらいましょう。

これだけ憲法を壊し、国民生活破壊してきた安倍総理に「レトリックカード」を

憲法9条を守る署名は安倍内閣NOの意思表示です。

ぜひ皆さんの御協力をお願いします。

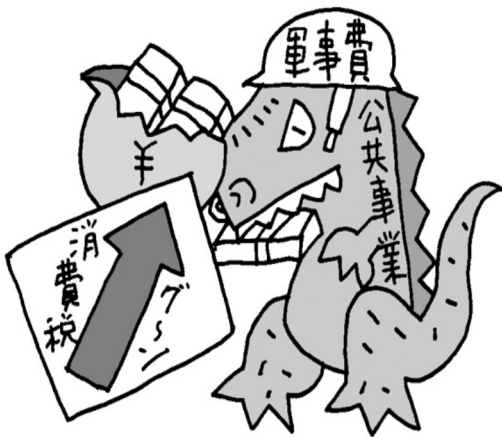
戦争への道・安倍改憲許さず

誰のための改憲なの

安倍首相は、秋の臨時国会に、改憲は党結成以来の悲願」として自民党の日本国憲法改正案を提出しようとしています。

8月8日に67歳で亡くなった沖縄県の翁長雄志知事は、生前、「安倍首相はいったいどこを向いて政治をやっているのか？日本の総理大臣なのに、どうして日本のためでなくアメリカのための政策ばかり進めているのか？」安倍首相が目指しているのは『戦後レジュームからの脱却』ではなく、『戦後レジュームの完成』ではないのか？と指摘し、日米地位協定ひとつも正常化できないアメリ

リ力従属の弱腰姿勢を厳し



く批判していました。日本が世界に誇る平和憲法を「アメリカから押し付けられた恥ずかしい憲法」と揶揄するのなら、その前に日本人を苦しめ続けている日米地位協定を正常化するのが、日本の首相としての最優先課題で、日本人のための福祉や社会保障の予算を削ってまでアメリカの言い値で欠陥機オスプレーやアメリカ力を守るイージスアシアなどを購入することを止めるべきでは無いでしょうか。

情報格差と自己責任

情報社会と言われる現代、本来はボーダーレスなはずのネット社会が偏向的な情報であふれ分断されているように感じます。僅か一部分がさも全体のように思い込んでしまったり、対立意見が見えなかったり、偏見は悪いことばかりではないのですが、危険なのは偏向的な自分の知識や情報が社会のすべてと思いついてしまうことです。これはすなわち、情報社会にお



ける『引きこもり』であり、孤独です。社会は多様な考え方を包摂しながら枠組みが変容していくべきものです。しかし今はあらかじめ決められた社会の枠組みに適応するかどうかばかりが重要視され、結果『引きこもり』が生まれるのです。これは知る手段に格差がありながら、知る権利は平等だという建前のもと、情報格差を自己責任の一括りにしてきたからでしょう。大事なことが隠蔽されていた時代から、様々なデマやフェイクによって「木を隠すなら森の中」式に本当のことが見えなくなっている現代へ。情報格差を自己責任にせず、自分の情報と相手の情報をお互いの「情けに報いる」ような関係性の中で共有し、つながりを拡げていきたいものです。

山田龍亮 (精神科ソーシャルワーカー)

憲法9条を守る集会 ぜひご参加を

憲法9条京都の会
結成10周年記念
9条京都のつどい2018
記念講演

「改憲止める！」
市民と野党の共闘
中野晃一さん (上智大学教授)
(「市民連合」呼びかけ人)

10月6日 (土)
Pm 2~4:30
龍谷大学響都ホール
(アバンティ9F)

11.3 憲法集会

11月3日 (土・祝)
午後1:30~
円山野外音楽堂
講演 広渡清吾さん
(東大名誉教授・市民連合)